

鎌倉幕府の成立

① 院と平氏の政治

<復習>

「墾田永年私財法」により、自分で耕した土地は国に返さなくてもよくなり、永遠に自分のものとなりました。・・・(荘園) 私有地のこと

一方、もとは国の土地で、国司が支配している荘園以外の土地のことを(公領)といいます。

土地が自分のものになったとはいえ、国司からの税の取り立てはひどくなる。
困った農民たち...

「すいませんが、私の土地もらってください。収穫の何%か差し上げますので。」
と、力のある貴族に渡す(= 寄進)ことにした。

↓
[なぜなら、貴族や寺社は税を払わなくてもよい
という貴族たちにとって都合のいいルールがあったから]

荘園を広げた大寺院では、朝廷に圧力をかけて荘園の争いを解決しようと、(僧兵)とよばれる武僧した僧をかかえるようになりました。



対抗して

対して、上皇や貴族たちは、源氏や平氏などの武士団を警備にあて対抗しました。

↑ ガードマンとして

貴族たちに預けられた荘園から税は取れないので、国はだんだん貧しくなっています。税金も払えないから町は荒れていき、カブクで土地を奪い取るようになる泥棒も増え、貴族たちはガードマンとして武士を雇うことにしました。

そんな頃、摂関政治を続けていた藤原氏は...

自分の娘を天皇の妃にして、生まれた子供を天皇にし、父が天皇に代わって(補佐)して行った政治のこと

ついに嫁がせる子供がいなくなると



藤原氏と関係のない皇子が天皇に即位しました。 後三条天皇 です。

1170年ぶりだった!

藤原氏は力を失っていき、これからは上皇が力をもつ時代人。